

「公印省略」

21病防第21号の2  
平成21年4月9日

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿  
農業資材販売等関係者 }

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予察速報第2号について

このことについて、病虫害発生予察速報第2号を発表したので送付します。

麦類の赤かび病に対する防除については、既に平成21年3月25日発表の技術情報で注意を呼びかけたところです。今年は、生育がやや早く、気象予報では感染時期に降雨があると予想されていますので、防除の徹底を指導願います。

## 速報第2号

### 麦類

1 対象作物：小麦、二条大麦

### 2 病虫害名：赤かび病

3 発生地域：県下全域

4 発生時期：平年よりやや早い

5 発生量：やや多

### 6 速報の根拠

(1) 赤かび病は、小麦については主要感染時期である開花期から開花10日後、二条大麦については穂揃期の約10日後に降雨（平均気温15以上）に遭遇すると、多発する可能性が高い。福岡管区气象台発表の週間天気予報では、小麦や二条大麦での感染時期である4月14～15日は、最高気温が20～21と高く、降水確率が両日とも50%と予想されている。

### 7 防除上注意すべき事項

(1) 本年における麦類の出穂期は、平年よりやや早い状況である（第1表）。なお、出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等によりほ場ごとに異なるので、その把握に努める。

(2) 小麦の防除適期は開花期（出穂期後7～10日頃）である。 なお、1回目の防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に2回目の防除を行う。

(3) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約10日後（出穂期後1.2～1.4日、莢殻が抽出し始める頃）である。この時期は収穫前30日頃となるため、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に留意する。

- (4) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果低下するので、降雨情報に留意する。なお、薬剤散布後に降雨があり、再度散布すると散布回数は2回とカウントされるので注意する。
- (5) 防除に当たっては、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

第1表 農業総合試験場における麦類の出穂期

麦種	品種名	播種期	出穂期	平年差	前年差	所在地
小 麦	秋ゴイミ	11月 18日	4月 8日	-3	-4	筑紫野市
	シガネムギ	11月 20日	4月 6日	-3	-3	大木町
二 条	アサゴ-ルト	11月 25日	4月 9日	-2	-3	筑紫野市
	ほうしゅん	11月 25日	4月 7日	-3	-2	筑紫野市
大 麦	ニノカ	11月 25日	4月 6日	±0	±0	大木町
	はるしずく	11月 25日	4月 5日	-	-1	大木町

注1) 福岡県農業総合試験場農産部(筑紫野市)及び筑後分場(大木町)調べ








注2) 平年: H10~H19年の平均、「ほうしゅん」は前5年の平均

注3) -: データなし

8 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は0.0%である(赤かび病被害粒が0.05%以上混入しているものは規格外となる)。また、小麦穀粒に含まれるかび毒(DON)の暫定基準値は1.1ppmで、この値を超える小麦は流通できない。

4月9日11時

日付	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	
福岡県 府県天気予報へ	晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇 	
降水確率(%)	0/0/10/10	20	20	30	50	50	40	
信頼度	/	/	A	B	C	C	C	
福岡	最低(°C)	13	14(±2)	13(±2)	12(±2)	13(±2)	13(±4)	12(±4)
	最高(°C)	23	23(±4)	21(±4)	22(±3)	21(±4)	20(±4)	20(±4)
平年値	降水量の合計		最高最低気温					
福岡	平年並 15 - 32mm		最低気温		最高気温			
			10.4°C		18.7°C			